

歯科医師・薬剤師・看護職員向け認知症対応力向上研修の評価方法と受講後の実態に関する調査研究事業 事業結果概要

1. 事業目的

平成 28 年度から歯科医師、薬剤師、看護職員向けの認知症対応力向上研修が新たに開始された。これらの受講者について、受講後の実際の取り組みについて調査の上、研修のより効果的なあり方について検討し、報告書にまとめる。

2. 事業内容

(1) 委員会の設置

研修の受講対象である歯科医師、薬剤師、看護職員それぞれに、部会を設置し、修了者の実態把握調査、調査結果の評価、修了者支援や今後の研修のあり方について検討を行った。

(2) 歯科医師研修・薬剤師研修修了者の実態把握アンケートの実施

歯科医師研修、薬剤師研修の平成 28、29 年度修了者に、「基本情報」、「研修後の行動変化」、「地域での取り組み」の 3 つの柱で構成したアンケート調査を実施した。

(3) 看護職員研修（実施側・受講側）に対するヒアリング調査の実施

看護職員研修について、研修の内容や実施方法等の性格に鑑み、研修実施主体（運営者や講師）と受講者への詳細なヒアリングを、全国で 3 地域において実施した。

3. 事業結果

(1) 歯科医師・薬剤師 研修修了者アンケート調査結果

日常の歯科診療や薬局業務における変化としては、約半数の受講者が、「配慮ある対応をするようになった」、「家族等の相談対応をするようになった」、「認知症の人等に気づくようになった」と回答していた。受講後一定期間の活動を振り返った中で、研修の効果が着実に現れていることが示唆された。日常業務以外の活動では、「多職種研修に参加するようになった」とした回答が、いずれも修了者でも最多で、受講による多職種連携の重要性の認識や院外・局外とのつながりへの関心などが高まった様子がうかがえた。

受講後の地域活動への参加等では、「早期発見・対応のための仕組み」について、「仕組みがあり、参加している」としたのは約 2 割にとどまり、受講後一定期間を経た段階でも、受講を契機とした「早期発見・対応のための仕組み」への参画、までは進めていないのが多数であった。

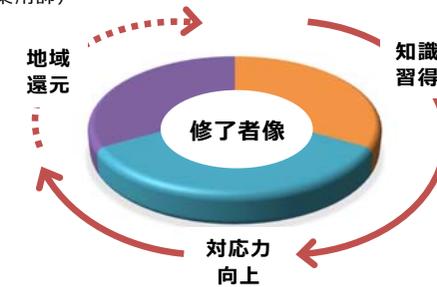
(2) 看護職員 研修実施主体・受講者ヒアリング調査結果

看護職員認知症対応力向上研修は、受講者の役職やキャリアが必ずしも研修カリキュラム・教材内容にマッチしていない場合がみられた。研修目的をわかりやすくすることで、病院からの受講者選出や受講者自身の動機づけ、また、講義内容も散逸しないとの指摘があった。

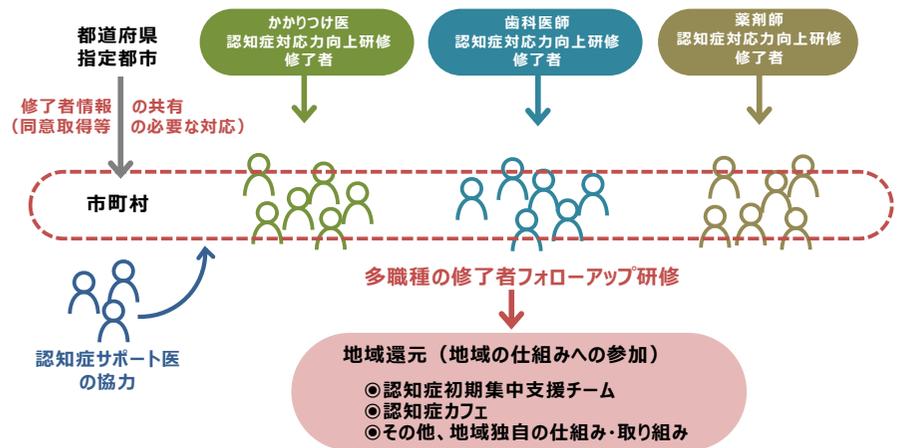
また、基本知識編、対応力向上編、マネジメント編の構成趣旨、研修を行っていく上でのポイントが明確になると研修全体の流れを構成しやすいとの意見があった。

4. 課題

- ① 修了者の地域還元の充実には、「修了者像」が研修カリキュラムや教材（国等）を通じて明示され、受講者募集や講師選定等の運営実施（都道府県等）、修了者を積極的に活かした地域の仕組み作り（市町村等）、研修内容の発揮（受講者）それぞれにおいて共有され展開されることが望まれる。（歯科医師・薬剤師）



- ② 研修修了者が日常活動を行う市町村で、スムーズな連携・仕組みに参加するには、各研修修了者について、合同にフォローアップ研修を受講することが、歯科医師・薬剤師研修修了者による地域還元にとって効果的と考える。（同上）



- ③ 実施主体（都道府県・指定都市）は、管内の病院の受講状況を把握し、計画的な全体運営（修了者の計画的配置、院内還元による病院の対応力向上まで）が求められる。（看護）